



## Kobe University Repository : Kernel

タイトル Title	癌の成り立ち (新春学術講演)(新春学術講演)
著者 Author(s)	西塚, 泰美
掲載誌・巻号・ページ Citation	神戸大学医学部神縁会学術誌,12:52-53
刊行日 Issue date	1996-08
資源タイプ Resource Type	Departmental Bulletin Paper / 紀要論文
版区分 Resource Version	publisher
権利 Rights	
DOI	
URL	<a href="http://www.lib.kobe-u.ac.jp/handle_kernel/81007461">http://www.lib.kobe-u.ac.jp/handle_kernel/81007461</a>

Create Date: 2017-12-18



## 癌の成り立ち

神戸大学学長 西塚泰美

菱田先生：——お待たせしました。ただ今より学術講演第二部の特別講演に移りたいと思います。特別講演はご案内申し上げました様に、本年は神戸大学学長に昨年ご就任になられました西塚先生にお忙しい中をぜひお願い致しまして、お話をお伺いすることに致しました。西塚先生については、神戸大学医学部の第一病理学の伊東先生が司会者を受けていただきました。伊東先生に司会していただきたいと思います。それでは伊東先生お願いします。

伊東先生：菱田先生、ご紹介ありがとうございます。ただ今から平成8年度の神緑会学術講演を西塚先生から承ることにしたいと思います。それに先立ちまして、このご講演を賜るようになったいきさつと、それからご経歴を、もうご経歴を紹介する必要もないのでございますけれども、恒例によりましてさせていただきますと思います。

西塚泰美学長は昭和32年の京都大学のご卒業でございます。それで、山鳥医学部長、あるいは望月真人前病院長とご同年でございます。お二人の先生は3月にご退官になりますけれども、最終講義という場が設けられております。しかし、西塚学長は学長になられましたので、そうした機会がございません。それで神緑会の先生方にこの機会をもちまして最終講義のひとつとしてお聞きしていただきたいということで企画させていただきました。

た。学生あるいは内部の人々に関しましては、5月か6月に松村武男教授あるいは山村教授のご賛同を得まして、別にさせていただきたいと思います。

西塚先生が医学部に入られた頃は、まだ進学過程がございまして、西塚先生は京都大学の農学部にもまず、お入りになりました。それで、かの有名な早石修先生——現在大阪バイオサイエンスの所長でございますけれども——の生化学にお入りになる前に、繊維で有名な高分子の有機化学の工学部へ出かけられたり、いろいろ幅を広くされております。それで昭和44年1月から平成7年の9月まで神戸大学に生化学の教授として勤められまして、その間皆様ご存じのように、国内の医学賞——文化勲章とか日本学士院賞とか総なめにされて参りました。海外での評価も高く、スロン賞——これはアメリカの癌の研究賞でございますけれども——あるいはガードナー賞——カナダの生理学賞でございますけれども、あるいはもうオランダとかアメリカとかいろいろの賞をもらわれまして、残るはノーベル賞だけでございます。

それで、今日は『癌の成り立ち』というお話を歴史的な経過をふまえられまして、分かりやすく、今日の oncogene (癌遺伝子) に至るまでご解説願うことに致しました。どうか先生よろしく願いいたします。



## 並びに新春学術講演会



西塚学長には、癌の研究について、歴史的事項、研究の背景やPKCの作用機構の解明まで、解りやすく深い内容をご講演いただきました。(編集部注)

伊東先生：西塚先生、素晴らしいご講演ありがとうございました。後ほど、内藤理事長からお礼を渡していただきますけれども、その前にお礼の言葉を述べさせていただきたいと思っています。

本日は大変難しいテーマを分かりやすいお言葉で歴史的な経過をベースにさせていただき、有名な研究者のプロフィールを紹介していただきながら本当に平易にお話していただきましてありがとうございました。先生の情熱がひしひしと伝わりました。『すべての道がローマに通ずる』と申しますけれども、ただ今のお話で内因性、外因性と申しますか、いろんな研究、あるいは治療、あるいは診断などがPKCを通じてなされる将来になろうかと思えます。先生は強調されませんでしたけれども、protein kinase Cは世界で初めて西塚先生の教室で発見されました。そういうことはおっしゃいませんでしたけれども、それは先生のお人柄であろうかと思えます。それが、やはり神戸大学の第二生化学で発見されたということが、我々が尊敬して止まないといえますか、誇りにさせていただいております所以であろうかと思えます。

本当に先生、ありがとうございました。もう一つ述べさせて戴きたいと思えます。今日、フロントに『人と村と国と』という本が並べられております。この本は、今、前に座っておられます森英樹先生、内山三郎先生、戸沢

辰男先生、松本和彦先生の熱い情熱と努力によってなされました医学交流の30年の歴史でございます。その帯が、この黄色い所に西塚先生が書かれております。素晴らしい文章でございます。ちょっと読ませて戴きます。

『人の世は人と人との出会いから始まる。その人と人との間には、やがて行き来する道ができる。時が経つほどたくさんの人々の通る広い道になり、人同士が、村同士が、国同士へと道はいつそう広がる。医療に関わる時、人の往来は一層頻繁になりその道はより広がる。』後は省略致しますけれども、この村とか国を、病院とかあるいは部局とかに置き換えますなれば道というのはやはりこれからの神緑会の活動のあり方ではないかと思えます。

大変、若輩で申し訳ございませんけれども、神緑会を代表致しまして、我々、物心ともにこれからも西塚先生を応援をしていく事を約束いたしまして、先生への感謝の誠とさせていただきます。どうも、ありがとうございました。

菱田副理事長：ささやかでございますが、神緑会、内藤理事長の方から西塚先生に記念品を贈呈したいと思います。どうもありがとうございました。それでは、これを持ちまして、本年の学術講演会を終了させていただきます。